

あなたの安心

どうしてカビに悩まされるのか。それを考えると、現代の住宅のつくりと暮らし方のミスマッチが見えてくる。

NPO法人「日本健康住宅協会」(本部・大阪市)の安藤研治常務理事は「意識の温度差が、業界の中にもあります」という。

戸建て住宅では北東や北西の外壁に接して押し入れや水回りをつくらない。マンションでは南北に細長い間取りだと空気が通り抜けにくい。それはわかっているのだが、限

られた土地で効率よく面積をとることが優先される。

消費者はウイルス対策など加湿に熱心だが、カビは建物の問題と片づけがちだ。「私たちの調査では、同じ条件のマンション内でカビの生える家と生えない家があった。住み方次第なのです」

シックハウス対策の改正建築基準法以降、強制換気のできる住まいが増えても、音が

住み手の意識変革も必要

カビない毎日を5

うるさい、運転すると寒いといった理由で使われないケースも目に付くという。

国立保健医療科学院建築衛生部長の大澤元毅さんは、結露やシックハウスなど空気質を研究する。「起きた問題に対処してきたが、全体でどのレベルを目指すか像がない。家の中を、熱と空気と湿気が『ふつうに』流れれば、カビも問題にはならないのです」

夏向きにつくられてきた日本の家はすきま風いっぱい。ストープは人のいる場所では

要な時だけ使った。それが1970年代に大転換した。高気密・高断熱にはなったが、欧米式に建物全体の暖房まで進まなかった。「空気の管理で大事なのは家の中に温

カビに教わることは?

- 1 家と住み方のバランス
- 2 大切な空気の総合設計
- 3 支配できない自然の力

■家とカビの相談窓口

- NPO法人
日本健康住宅協会(www.kjknpo.com/)
06-6390-8277
(月、水、金10:00~12:00 13:00~17:00)
- 財団法人
住宅リフォーム・紛争処理支援センター(www.chord.or.jp/)
03-3556-5147
(月~金 10:00~12:00 13:00~17:00)

ホームページで事例も紹介、参考に...

The Asahi Shimbun

度差をつくらないこと。そのための技術開発と住み手の意識変革が必要」と大澤さん。

国は、働く人のためにオフィス内の湿度は40~70%を基準値にするが、「実態調査では半数のビルが乾きすぎ。管理者がどこかでカビが出るのを嫌がるからです」。

「ライフスタイルという言葉はきれいだが、住み手のわがままや建物の維持管理の怠慢と言いつくられる。カビは暮らしのマーカー(指標)かもしれない」

(長沢美津子)

次回回は8日から「なっとく! お風呂」です。

◆ご意見・体験は、メールseikatsu@asahi.com